

デジタル俳句フォーマットによる相互評価システム開発

新潟県長岡市立表町小学校 篠田 賢一

1 実践の目的

- 自分の考え、まとめなどを俳句という共通のフォーマットで行い、学習の成果やつまづきをみとる。
- デジタル化のよさを生かして、資料と俳句とリンクした Web システムを開発する。
- 学校間でデジタル俳句を相互評価し、楽しく有意義に交流ができるようにする。
- できあがったデジタル俳句を学習成果として、DVD 化を通して明らかにする。



2 実践の概要

(1) 「やっほ一つばさ デジタル俳句掲示板」の設置

XOOPS と呼ばれる (<http://jp.xoops.org/>) CMS ソフトを使った校内サーバーの構築。モジュールの組み合わせで高機能なサイトを作ることが可能。

俳句と写真、ホームページとのリンク、相手へのコメントなど、いつでもコメントを書くことができ、学習の成果を振り返ることができた。

校内サーバー構築方法は、当校ホームページを参照。

<http://www.kome100.ne.jp/omotemachi-es/>

(2) デジタル俳句で評価した教科、領域、総合的な学習

【理科】台風の接近・天気の変化

【総合】アイガモ農法による米の収穫、1年間の自分の成長

【英語活動】月2回の英語活動の感想、反省

【図工】デジタルアート「HAIKU」

【学校行事】持久走大会、鼓笛パレード、探検ウォーク

【国語】俳句の先生を招いての句会、山形県鳥海小学校との電子メール句会

- 学習の過程、まとめに俳句を作成し、子供たちの興味や考え、気持ちを把握するようにした。
- 同時に俳句に合う写真やホームページがあれば、リンクを張った。
- 俳句だけで十分気持ちを伝えられない子へは、補足説明を認めた。
- 子供、教師ともに互いの俳句についてコメントを送り合った。

3 成果と課題の概要

- デジタル俳句は、自分の考えのもとになったものとリンクでき、根拠を明確にまとめられる。
- 俳句によるキーワード化は、要点をとらえて表現する力を育てられる。
- 俳句を自分の気持ちを表すもの、人に分かりやすく伝えるものという2つの視点をもっていた。
- 俳句作りで、自分の気持ちにあう言葉を探すようになり、気持ちの焦点化ができるようになった。
- 句会を通して、相手に気持ちを伝えるための工夫、季語の大切さなど俳句を作る上での留意点を自ら発見していた。
- 理科、国語、総合的な学習などは、俳句を作りやすく教師もよく利用できたが、算数や道徳などは、デジタル俳句は向かず俳句とはなじまなかった。
- デジタル俳句によって自分を振り返り、自分の成長を確認できた。また、DVD化によってクラス全員の成果を共有することができた。
- 俳句作りが苦手な子へは行動場面をよく観察し、個別指導をしていく必要があった。